

## 7月チャブレンだより

# 「さりげなく」

横浜市在住の主婦 M さん(80歳)が、以下のような記事を朝日新聞に投稿されました。

以前、苦い経験をしたことがある。電車のドア近くに立っていた若い女性の脇のファスナーが開いていた。「ファスナーが開いていますよ」。小声で知らせたつもりだったが、すさまじい形相でにらまれてしまった。「大きなお世話」と言わんばかりに。以来、私は同じような状況があっても、見て見ぬふりをするようになった。

そんなある日、電車の中で、見知らぬ女性からメモを渡された。「スカートの裾がほころびています」とあった。車内は満員で、身動きがとれないまま、一駅、二駅過ぎ、やっと裾を見ることができた。ほつれた糸が床まで下がっていた。車内のドアの近くでやっと糸をちぎり、たまたま持ち合わせていたクリップで裾を2、3カ所はさんだ。恥ずかしかったが、さりげなく教えてくれてありがたかった。お礼を言おうと思い、優しい微笑みの初老の上品な女性を探したが、いつのまにか下車していた。苦い思いをし、親切をするのも難しいと感じただけに、こうした接し方もあるんだと、その方のさりげない親切に感動した……。

人に親切や善行を施すことは、簡単なようで、結構、難しいようです。親切心をもったばかりに、善意のつもりが、かえって、苦い思いを刈り取ってしまう場合もあります。しかし、的を得た親切は、さわやかな感動を生み出します。

聖書のことば

「あなたは施しをする場合、右の手のしていることを左の手に知らせるな」

マタイによる福音書6章3節

親切や善行は、誰にも気づかれないように、さりげなく施すことが肝要のようです。

石川三育保育園チャブレン 北睦夫